

公同礼拝

2025年3月30日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 姜 憎米

奏楽 河野和雄

前 奏

招 詞 ヨハネによる福音書4章23～24節

讃 美 歌 10

主の祈り

聖 書 詩編63編2～9節 (旧 895)

マタイによる福音書28章1～20節(新59)

祈 祷

使徒信条

讃 美 歌 111

説 教 「われらを待つキリスト」

牧師 高橋和人

祈 祷

讃 美 歌 151

献 金

頌 荣 540

祝 祷

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。

礼拝は前方から静かに着席しましょう。

3月の祈り

時を越えて変わることなく御言葉によって御心を示し、教会を導かれる神に従い行くことができるよう。

受難節にあって、信仰の原点である主の御受難に思いを寄せ、祈りの時を大切にできるよう。

年度末のそれぞれの働きが守られるように。

卒業、進学、進級と新たな歩みを迎える子どもたち若い人々が祝福を受けるよう。

戦火が止み平和がもたらされるように。痛みを負う人々に慰めといたわりが与えられるよう。

今日の祈り

新たな歩みに向かう教会が、御言葉によって常に改革され、人の知恵によらず、宣教の愚かさによって歩みを進めることができるよう。

教職が聖霊によって靈においても体においても力づけられるように。牧者に従い教会生活が整えられるよう。

レントにふさわしく信仰の日々を過ごすができるよう。

「われらを待つキリスト」 高橋和人

マタイによる福音書28章1～20節

主イエスは十字架に死なれ、葬られた。厳然たる事実だ。二人のマリアは墓を見に行く。入城からの一週間、今、愛する主の死を受け止めねばならない。悲しみと絶望の底でこれまでの時が失われてしまっている。

地震があり輝き白い天使が石を転がし、その上に座った。神の出来事がもたらされている。天使は語る「恐れるな」と。現代は恐れを失っている。

混乱の時代だ。女たちはイエスを探している。天使は「十字架に付けられた主イエスは墓にはおられない。かねて言われていたとおり復活された」そして「先にガリラヤに行かれ、そこでお目にかかる」と告げる。

ガリラヤは弟子たちの故郷、出会いと旅の始まり。主が先に行かれるのは、復活の主との出会いが生涯全体を意味づける。死に向かって生き、死で終わる生涯が、今、主にある生涯となる。

婦人たちは遣わされるが、すぐに主に再会する。彼女たちの生の歩みは既に変わってきている。「おはよう」と言われた主、その足を抱きひれ伏した。愛と礼拝の生き方となった。

弟子たちは指示された山に行き、そこで主にあった。ガリラヤの山、説教の山、そこには主イエスとの原風景があった。

疑う者がいた。完全な信仰も信仰の完成もあるわけではない。不完全な信仰と共に信仰に生きる。疑いつつ信じる。主はいつも疑いから信仰へ、不信から信仰へ導いてくださる。問われ、赦され、叱られ、導かれる。何よりも近寄ってくださる。

そして派遣される。主はその権能を持っておられる。またすべての民は弟子とされる。誰もが救われ信仰に招かれる。そして誰もが弟子として生きられる。われらが教えられたのも弟子として生きることだ。

弟子は師と共にいる。主は世の終わりまで共におられる。主が共に居られない時はない。むしろ今を終わりの時(1ペトロ 1:20)として、かけがえのない一日を生きることになる。皆が主の弟子として生きるところに宣教がある。